

# 入院患者における転倒・転落防止

ーエビデンスに基づくアセスメント・スコアシートの作成を目指してー

転倒・転落防止対策チーム

池ノ内 千乃

キーワード：転倒・転落、アセスメントスコア、入院時アセスメント

## I. はじめに

我々が従来から使用している転倒・転落アセスメント項目は、転倒・転落のリスクを広範囲にとらえ、詳細に評価しようとしている。そのため、多数の調査項目を取り入れた詳細なスコアシートが普及しているが、その有用性については明らかなエビデンスに欠ける項目や、客観的評価が困難な項目も含まれている。そこで、平成19年度木村看護教育振興財団の看護助成を受け、転倒・転落防止のための入院時アセスメントにおいて、臨床現場での使用に適した評価項目の選定を目的として検討を行ったものを報告する。

## II. 研究方法

### 1. 対象者

平成18年11月1日～11月30日にA病院に入院した全患者652名

### 2. 調査期間

平成18年11月～平成19年2月

### 3. データ収集方法

すでに臨床で使用されている、①年齢、②既往症、③感覚、④環境変化、⑤機能障害、⑥活動領域、⑦認識力、⑧薬剤、⑨排泄、⑩症状、⑪履物、⑫その他の12主要項目に含まれる全64項目からなる「転倒・転落アセスメント・スコアシート」を用いて、病棟看護師にアセスメントしてもらう。アセスメントの時期は入院時および、入院中に転倒・転落が生じた場合には転倒・転落イベント直前の評価を加えることとした。

### 4. データ分析方法

入院時の危険度スコアを評価し、その後入院中に転倒・転落イベントのあった患者の各評価項目についてカイ2乗検定を行い、有用な項目の選定を行う。

### 5. 倫理的配慮

当院規定の倫理的配慮を行い承認された。

## III. 結 果

### 1. 患者の属性

対象患者652名の平均年齢(m±SD)は59.0(±21.7)歳、その内、転倒者は16名で平均年齢は65.5(±19.3)歳であった。

### 2. 転倒・転落アセスメント・スコアシートの12主要項目に含まれる全64項目について転倒なし群と転倒あり群でカイ2乗検定を行った結果、入院時転倒・転落アセスメントに有用な14項目を抽出した。

①転倒したことがある ②聴力障害がある ③足腰の弱り、筋力の低下がある ④車椅子・杖・歩行器を使用している ⑤移動に介助が必要である ⑥ふらつき・失調性歩行がある ⑦付属物の装着(点滴・吸引器・ドレナージ以外) ⑧混乱がある ⑨判断力、理解力の低下がある⑩不穏行動がある ⑪トイレ介助が必要(ポータブルトイレ使用を含む) ⑫浮腫がある ⑬説明しても守らない患者 ⑭スリッパを履いている

## VI. 今後の展望

今回選定された項目は、入院時の転倒・転落アセスメント項目であり、今後は入院後に刻々と変化する患者の状態に合わせたアセスメント項目を追加する必要があると考える。我々は、より効果的で簡便な項目選定を目指し現在も検討を重ねている。